

六ツ川地区

第2期計画の振り返り（平成22～27年度）

☆ふれあい六ツ川

福祉・保健のまちを支える担い手をみんなで育てるために・・・

【成果】

- ・地区社協広報紙「むつかわ瓦版」や六ツ川地域ケアプラザ広報紙「地域交流便」に地区社協事業を掲載し、活動の周知を図っています。
- ・担い手をやる良さや意義が伝わるよう地区社協広報紙「むつかわ瓦版」で担い手のコメントを取り上げました。担い手のやる気にもつながっています。
- ・活動スタッフの交流を深め、担い手同士の親睦を図る事業も実施してきました。

【今後に向けて】

- ・若い年代の人々に地区行事に参加してもらえるように、事業を継続していくとともに頻度を増やすなど参加しやすくする工夫をしていきます。

地域住民同士の交流の輪をより大きくするために・・・

【成果】

- ・「交流サロン『カーネーション』」など高齢者や子育て中の親が互いに交流できる事業を展開するなかで、住民同士の仲間づくりが広がっています。

【今後に向けて】

- ・学校の「福祉教育」で「福祉」に関心を持った地域の子どもたちが活躍できる場を地域でつくりだせるよう今ある事業とも結びつけて検討していきます。



カーネーション

みんながいきいき健康で暮らせるまちにするために・・・

【成果】

- ・自治会ごとに体操会などの事業に取り組んできました。健康づくりの場であるとともに住民同士の交流の場にもなっています。

【今後に向けて】

- ・各地区の体操会など今ある場を活用し、健康づくりをきっかけとした住民同士の交流を深めていきます。



食事会でのジャンケン体操

安心安全なまちづくりのために・・・

【成果】

- ・地区内のサロン活動や会食会等の地域福祉活動と連携した見守り活動を実施してきました。
- ・民生委員児童委員による高齢者定期訪問や、地域福祉活動を通じた見守り活動を実施しています。
- ・「六ツ川みまもりたい」では地域のコンビニと連携し、認知症高齢者の見守り・連絡について協力体制を構築しました。



地区社協役員会

【今後に向けて】

- ・地域の福祉活動とより一層連携した見守り活動を継続していきます。
- ・地域内の他のコンビニエンスストアやスーパーなどにも見守りの輪を広げていき、認知症高齢者やその家族が安心して過ごせる地域をつくっていきます。

災害時の要援護者支援体制の構築のために・・・

【成果】

- ・連合防災訓練、防災ウォークラリーなどの活動を通じて要援護者支援体制の構築を検討してきました。

【今後に向けて】

- ・複数の防災拠点それぞれとの関わりも視野に入れていきます。
- ・日常の見守りを続けていくことで災害時に要援護者を孤立させない体制をつくっていきます。

第3期計画（平成28～32年度）

地域の特徴

（データ＝平成26年9月末日現在）

弘明寺以西の平戸桜木道路を主軸にした地区です。急勾配の地形そのままに多様なタイプの街並みが混在しています。

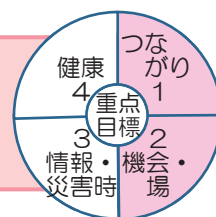
地区人口＝約11,500人
年少人口比率＝11.8%
高齢人口比率＝25.5%
総世帯数＝約5,400世帯
平均世帯規模＝約2.1人



ふれあい六ツ川

福祉活動を支える担い手の輪を広げるために・・・

5年後の将来像：地域活動を通じて住民の地域福祉活動への関心が高まり、新たな担い手が育っている。

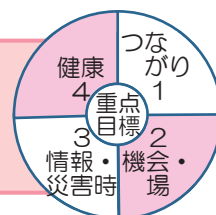


具体的な取組等

- ・地区社協広報紙「むつかわ瓦版」やチラシ、また地区連合はじめ地区内の関係団体、活動者の声かけなど様々な手段を活用していきます。また、新たに活動へ参加してもらうために、地区の活動や行事を知ってもらえるように広報紙を充実していきます。
- ・各事業のスタッフや参加者の意見、感想を広報紙に多く掲載するように努め、担い手になる意義を発信していきます。
- ・事業のスタッフ同士の交流を深める親睦旅行等を行い、継続して楽しんでボランティア活動ができるようチームワークの強化を図っていきます。
- ・担い手を育成する意味で、既存の行事の頻度や内容についても再検討します。

だれもが健康で暮らせる地域にするために・・・

5年後の将来像：地域住民が健康的な生活を続けている。

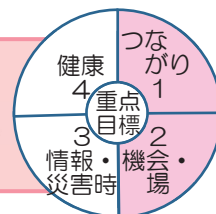


具体的な取組等

- ・第1期計画より継続している「六ツ川地区保健体操会」を引き続き実施します。
- ・各自治会ごとに行われている健康づくり事業の情報を地区全体で共有していくため、地区社協広報紙「むつかわ瓦版」等で情報発信を進めます。
- ・サロン等の事業に健康づくりを目的とした事業が連携して実施できるよう取り組んでいきます。

世代・立場を超えた様々な交流の場をつくるために・・・

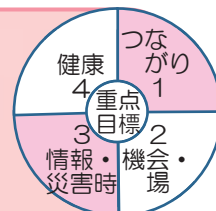
5年後の将来像：高齢者・障害者・青少年などさまざまな人々が集える場が複数でき、それぞれに交流が進んでいる。

**具体的な取組等**

- ・「食事会」「介護者の集い」「肢体不自由者福祉バス旅行」「昔遊び大会」といった地区社協が長年にわたって続けてきた様々な方を対象にした福祉保健活動を活かして、住民同士の交流をさらに深めていきます。
- ・地域でだれもが集える場である「野外サロン」「朝市サロン」「交流サロン」「ウォークラリー」等の活動に協力していきます。
- ・地区内の学校活動へ引き続き協力し、情報収集しながら「福祉活動」に中・高校生が地域で活躍できる機会をつくっていきます。
- ・「六ツ川ふれあい祭り」の「福祉バザー」において、地域の人々の出品・購入面での協力体制をさらに持続・発展させるように努めます。

みんなが安全に、安心して暮らせる町をつくるために・・・

5年後の将来像：地区内の様々な福祉保健活動が連携することで、日常的な見守り活動が継続し、自助・共助の意識が醸成されている。

**具体的な取組等**

- ・認知症への理解を深めていけるように研修会等の実施を企画します。
- ・地区の「食事会」については、お知らせのチラシを配布する段階から当日の実施までを見守り活動として取り組んでいきます。
- ・高齢者等定期訪問事業実施団体（民生委員児童委員、友愛活動員、保健活動推進員）と連携し、地域で見守りが必要な要援護者の現況の把握に努め、災害時に孤立させない支援につなげていきます。
- ・「六ツ川みまもりたい」の活動を通して、コンビニエンスストア等と連携した認知症高齢者の見守り・連絡の協力体制を広げていき、認知症高齢者の地域生活を支える仕組みを構築していきます。